

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000316		
法人名	有限会社 アールエムシー		
事業所名	洛和グループホーム桂 1階		
所在地	京都市西京区川島調子町35-1		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和3年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設としては幼老統合型複合施設洛和ウィズかつらとして小規模保育園・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションが一体となった施設である 家庭のような共同生活のなかで「その人らしさ」を引き出し生活支援を行っている
 日頃より園児との交流が持てる環境があり、日常的に自然にふれあえている。近所にはカフェがあり時折食事等に出かけている。毎年中学生の福祉体験の場として提供しその場で認知症サポーター講座も開催して認知症への理解を広めている
 地域との関わりは地域ケア会議等に参加し少しずつ認識して頂いている。これからも地域に根ざしたグループホームとなれるように継続的に取り組んでいきたい しかし今年度は、新型コロナウイルスの影響で交流が難しい現状である

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2674000316-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年10月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは併設の保育園児との交流を頻繁に行っており、保育園の夏祭りに利用者で参加したり毎月のホーム来訪時には一緒におやつを食べたり、敬老会には歌や遊戯の披露をしてもらうなど利用者の楽しみごととなっています。コロナ禍においても大きな窓越しに菜園に収穫に来た園児たちと手を振りながら笑顔を交わすなど関わりを継続しており、園児たちが収穫した野菜がホームに届き食卓にあがることもあります。また、コロナ禍で面会が制限されている中、電話での連絡回数を増やしたり、笑顔の扉と称し利用者と一緒七夕飾りを作成している場面や貼り絵などのでき上がった作品、洗濯物をたたむ等、日々の暮らしの様子をネットで配信するなど家族の方に理解と安心を得られるよう工夫をしながら取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念があり、事業所理念ができて職員間で共有ができています。	ホームの移転時に職員間で話し合い作成した独自の理念を事務所に掲示し新任職員にも理念に対する思い等を説明し理解を深めています。家族のような深い絆で繋がる心と心を大切にしながら日々の支援にあたっており、月1回のミーティングの中でも振り返りながら理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度、地域エリア会議が中止で参加出来ず。リビング横の家庭菜園は保育が中心となりされていて収穫野菜を頂いている。	近隣の薬局にあるカフェを利用したり、地域の店から弁当や和菓子を配達してもらっています。また、中学生の職場体験学習では認知症サポーター講座を行ったり、楽器演奏等ボランティアの来訪もありましたが、コロナ禍では自粛しています。隣接する保育園と交流をしており、現在も大きな窓越しに菜園に収穫に来た園児たちと手を振りながら笑顔を交わしたり、収穫した野菜がホームに届き食卓を飾ることもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の開催を1年に1度開催予定(10月～11月に洛西中学校1年生に開催予定)今年度は新型コロナウイルスの影響で開催難しい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際には日々の写真などを見て頂き日頃の活動報告をしている。意見交換も行い改善に向け検討している。新型コロナウイルスの為会議が中止になり書面等でご意見を聞いている	会議は家族や地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催し、利用者の状況や行事、事故報告、意見交換等をしており、コロナ禍では事前に意見を聞き報告書にて書面開催としています。散歩や日光浴についての意見が挙がり、コロナ禍で外出を控えており敷地内の散歩や菜園を眺める等少しでも気分転換を図ったり、感染対策については消毒や換気他、三密を避けるよう徹底していることを伝えていきます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との直接的取り組みについてはできていない。	連絡等については法人の担当者を通すことが多く注意喚起等については直接ホームに連絡があり職員に周知しています。運営推進会議の議事録を届けたり、事故報告等で窓口を訪れることもあります。地域ケア会議に参加したりアンケートに協力するなど協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○安全確保 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間のみ行っている 日常的には出入りは自由に行っている 虐待や拘束については、毎月担当者を代えて資料を作り勉強会を実施している。 伝達研修を実施している。	今年度大工の研修を受けた職員が資料を基に全職員に伝達し、月1回勉強会も行っています。安全な見守りのためにセンサーを使用している利用者があり必要性等について定期的に検討しています。不適切なケアが見られた場合は管理者が注意をしています。玄関やフロア入口は施錠せず外に出たい希望があれば職員が付き添い敷地内を散歩しています。運営推進会議で身体拘束に関する話し合いも行っています。	

洛和グループホーム柱 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所代表が全体研修で学び、事業所内で伝達研修を行い職員間周知を図っている。また、事業所内にポスターを掲示し虐待の防止に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により制度理解はできているが周知には至っていない... ご利用者も成年後見制度を活用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理解、納得していただけるように説明を行っている(入居相談センターの担当者と共に)疑問等あれば迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置している(週1回確認) 年に一度の満足度アンケートなどにより意見・不満・要望を記入していただいている。	家族の意見や要望は面会時や電話、年1回の満足度調査の中で聞いており利用者の日々の様子を伝え話しやすい雰囲気を作るようしています。下肢筋力の低下予防についての要望があり散歩に出たり敷地内を歩くように心がけ、希望から脳トレにも取り組み漢字ドリルやパズル等も行っています。利用者からは食べたいものや買いたいものの要望があり献立に反映させたり、買い物に出かけています。アンケート結果については家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1・2回事業所ミーティングを実施。 月1回のエリア会議にて意見交換をしている。	職員からはミーティングや申し送り、日々の業務の中、年2回の面談時の他、随時聞いておりミーティングに欠席の職員は事前に書面にて意見を提出し、議事録にて結果を確認しています。衣類の片付け間違いの意見については名前の記入や都度確認を徹底したり、安全な入浴を行うために浴槽の中の台や納涼祭で使用する綿あめの機械を購入する等、業務改善や物品購入に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価表や力量評価表にて把握に努めている。全体として、改善に向けたアンケートも実施し改善に努めている。適宜、職員面談も行い把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修・現任研修・管理者研修等がある また、キャリアパス制度もあり、研修に参加できるよう勤務を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所・会社外での交流は少ないが外部研修など参加の機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談は担当窓口を設けている。面接時には管理者・フロアリーダーも参加しご本人のご要望・や思いなど十分に話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や契約時に聞き取りを行い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接は管理者・相談員で行い、その後医療面からの判断も行い、複数名によりサービス利用が適正かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り一緒にできる場面作りに努めている、また自己決定ができるよう言葉かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を報告したり適宜電話連絡をしている。必要時には協力を仰ぎ共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの品物や写真などを可能な限り飾っている。 友人や知人などの訪問や電話なども継続し途切れないように支援している。	利用者の馴染みの人や場所については日々の関わりの中で聞き記録に残し職員間で共有し居室には友人の写真などを貼っている方もいます。コロナ禍以前は友人や親戚等の面会があり居室に案内しお茶や椅子を用意したり職員が中に入り話を取り持つなどの支援をしていました。勤めていた職場まで行ったり、カラオケや好きな歌手のコンサートその他、馴染みの店で食事をしたり懐かしい場所へ散歩に出かけたこともあります。	

洛和グループホーム 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からご利用者同士で関われる環境を作っているが、居室で過ごされる方や、他のご利用者とのかかわりが難しい方もおられ職員が中心となり関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談等があった際は、可能な限り相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご利用者やご家族から情報を収集しニーズを把握しアセスメントを行っているケアプラン作成時にはご本人・ご家族からの希望を聞いている。	入居時の面談で本人や家族から暮らしの意向や生活歴、趣味、嗜好品等を聞き入居時のアセスメントシートに記載すると共にケアマネジャーからの情報も得て思いの把握に努めています。入居後は日々の関わりの中で聞き、困難な場合は家族から聞いたり表情や様子から汲み取り、介護記録に記載しミーティングやサービス担当者会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集し、またご本人からの聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで一人一人の現状を職員間で共有し、毎月あるカンファレンスでも状態の変化などを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化やご利用者・ご家族からのご要望をもとにカンファレンスを行い介護計画を立案している、医師や看護師にも意見をいただいている。	本人や家族の意向の基作成した介護計画は初回は3か月、6か月、大きな変化がなければ1年で見直しを行っています。6か月毎にモニタリングを行い、見直しの際は再アセスメントとサービス担当者会議を行い、事前に聞いた本人や家族の意向、医師・看護師の意見等も必要に応じて反映させています。日々の介護記録は介護計画の達成状況が分かるように記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態は介護日誌に記録している 特変あれば日々の申し送りなどで伝え共有し検討している。		

洛和グループホーム柱 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携をはじめ、相談ができる体制ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス肺炎の影響で園児との交流は、控えている。植物の生育や保育園児の声を聞いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診やご利用者・ご家族の希望に添った医療が適正に受けられるようよう支援している	入居時に以前のかかりつけ医の継続ができることを説明しほとんどの利用者が協力医に変更しています。月に2回の往診があり24時間連絡可能となっており体調不良の時は訪問看護師に連絡し必要に応じて医師に指示を仰いでいます。専門医への受診は家族が対応しており、状況により職員が対応することもあり、受診結果連絡票にて内容を共有しています。訪問看護師が週1回来訪し健康管理を行い歯科往診は口腔ケアも含めて週1回必要や希望に応じて受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問と24時間いつでも連絡がとれる体制ができており、必要な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー等で情報の共有を行い状態把握として面会にいたり、病院の相談員への小まめな連絡をとるようにし早期退院に努めている。 常日頃からまだ出来ていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療の説明・重度化の指針など入居時に説明し理解を得ている またその場合はご家族にも説明を行い介護にあたっている。 地域との関係者との取り組みについてはできていない。	入居時に重度化についての指針を基に積極的な治療はできませんが往診医と連携を取りながら支援を行うことを説明し同意を得ています。重度化した場合は医師から家族に説明し看護師、職員の4者で話し合い方針を決めています。家族の頻回な面会等の協力を得ながら看護師より都度アドバイスももらい支援をすることもあります。看取り支援前には看護師より研修を受け支援後はカンファレンスで振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全職員が受けられる体制ができています。また緊急対応マニュアル作成し急変時に備えている。 AEDも設置し緊急時対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立会いによる消防訓練を行っている。 地震・災害のマニュアルもある。 地域の避難所マップにて把握している。	年2回併設の保育園と合同で1回は消防署立ち合いの下、昼夜想定で可能な利用者と通報、初期消火、避難誘導の訓練を行い運営推進会議で案内や報告をしています。独自で年に4回排気口やスプリンクラーの確認の他、机上訓練を行っています。飲料水やカセットコンロ、懐中電灯を準備しており地震等の避難の方法についてホームで研修をすることもあります。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに考慮し、1人ひとりに合った言葉かけ対応を行っている。	年1回法人主催の接遇についての内容をリモートにて研修した職員が伝達すると共に認知症ケアについても隔月にホームで勉強会を行い、尊厳を大切にされた対応を学んでいます。距離間と関係性を保ちながら丁寧な言葉で優しくゆっくり支援することを基本とし、不適切な対応があった場合は管理者が注意をしたり、ミーティングで話し合うようにしています。年2回の力量評価の中で接遇についても振り返りを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日とその人に合った言葉かけを行い、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを大切に、可能な限り好みに添った対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、入浴時や起床時など服の選択をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、メニューを一緒に考えたりしている。盛り付け等は、新型コロナウイルスの為控えてもらっている 共にできない方でも言葉かけをしたり食事が楽しめるように支援している。	食事は一食は冷凍の物を発注し二食は利用者の好みや行事食等にも配慮し献立を立て、以前は利用者には米研ぎや野菜の下ごしらえ、盛り付け等できることに携わってもらい職員と食事を摂っていました。コロナ禍で一緒に食事をしたり、作ることができなくなっておりメニューに対する話をしたりゴマすりや調理等の匂いを感じてもらったり、出前や手作りおやつなども楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養については状態に合わせて対応している。 食べる量が少ない方はプリンやゼリー等で補い、水分量が少ない方はチェック表を活用している。		

洛和グループホーム 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方は定期的に訪問歯科にて治療を受けていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者に合わせて定期的な誘導を行ったり、パッドの確認を行っている。	日中は座位が保てる場合はトイレでの排泄を基本とし支援し、夜間は睡眠を優先するためにおむつを使用している方やポータブルトイレを利用している方もいます。介護記録から排泄パターンを把握し表情や仕草を見逃さないようにトイレへの声かけや誘導を行い失敗が減り紙パンツで入居し布の下着に変更した方もいます。排泄用品や支援方法については業者に相談したりミーティング等で話し合い自立に向かうよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から乳製品の提供や水分補給、体操を取り入れる等行い便秘が予防できるように心がけている。 帯便が続く時等は医師の指示による服薬介助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りご利用者の希望に沿って入浴できるように支援している。 二人介助の入浴の方も多く難しいこともあるのが現状ではある。	入浴は週2回日中に支援しており、回数等について希望があれば増やす事も検討し、また昼間外出した際に夜間に入浴する方もいます。湯は一人ずつ入れ替え職員と会話を楽しみながらゆっくりと入浴してもらい、ゆず湯や菖蒲等の季節湯や入浴剤を使用しています。拒否された場合は職員や日時を変更したり時間をあけて声をかける等、工夫をしながら無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息がしたいときに出来るように対応している。 夜間も安眠できるように居室環境や温度設定をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルがありそれに添って援助を行っている。 お薬リストや一覧表にて内容の把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの得意なことを把握しそれがいかせるような場面の提供を意識している。		

洛和グループホーム桂 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候等に配慮し、短時間でも外に出るように心がけている(畑の収穫・散歩・保育園への訪問など)日常的に行けない場所には行事等で出かけられるように支援している。今年度は、新型コロナウイルスの影響で外出は、控えている。	頻繁に散歩に出かけ初詣や桜、コスモス、紅葉等季節毎の外出やお寺参り、カラオケ、足湯などにも出かけていましたが、コロナ禍では外出ができなくなり近所を散歩したり敷地内での外気浴をしています。新聞取りを日課にしている利用者もおり、できる限り外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のご利用者はお財布にお金を所持されており自身で管理されている。それ以外の方も希望があれば買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の使用や手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花の写真飾ったり、壁画作りをして飾っている。 園児からの作品を貼ったりと工夫をしている 家庭菜園をしており季節に合わせて花を育てたりと、居心地のよい環境づくりを心がけている。	生花を購入したり、菜園の中で咲いた花を摘んで利用者に活かしてもらったり、利用者と一緒に作成した季節毎の貼り絵やちぎり絵、行事の写真、保育園児の作品等を壁に貼り温かい雰囲気を作っています。可能な利用者と一緒に毎日換気や掃除をし、利用者の体感を聞きながら温湿度にも配慮し快適に過ごせる共有空間利を心がけています。テレビ前や廊下にソファを置きゆったりと過ごせるよう場所作りにも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の席の配置やソファの配置などで個別空間が作り出せるようにしている 各々の様子等をみて心地よく過ごせるように居場所の提供を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みのものを使っていたり、出来るだけ馴染みのものを使っていただけるように、入居時にご家族へ話をし居心地のよい居室空間になるよう工夫している。	入居時にダンスやテレビ、テーブル、椅子、仏壇等馴染みのものを持参してもらい家族と相談しながら配置し、入居後動線を考慮しながら変更することもあります。家族の写真や油絵、木目込み人形、布団カバー等自身の作品や裁縫・編み物道具、ぬいぐるみ等大切な物や趣味の物もそばに置きその人らしい居室となるよう工夫をしています。換気や掃除を毎日行い清潔保持にも努め、新聞や本を読む利用者や毎日日記をつけている利用者もいる等今までの生活習慣も大切にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のできる事を職員全体で把握し、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。 また生活環境の動線や整理整頓に努め安全に過ごせるようにしている。		